



<特別展より>展示風景

- 博物館 NEWS …………… ②
- 交流展を終えて …………… ③
- 特別展を終えて …………… ④⑤
- 企画展を終えて …………… ⑥
- 教育普及事業 …………… ⑦
- INFORMATION …………… ⑧



<交流展より>
〔国宝〕秋野鹿蒔絵手箱（出雲大社蔵）



<企画展より>ミニ機で花ござ織り体験をしよう！



<特別展より>〔国宝〕「餓鬼草紙」第五段（京都国立博物館蔵）

新収蔵資料

— 「太刀 銘 守家（金梨子地桐鳳凰文糸巻太刀拵附属）」・「太刀 銘 助長」 —

今年度、県内の刀剣愛好家から、貴重な備前刀太刀2口と太刀拵が寄贈され、冬季展で紹介しました。

「太刀 銘 守家」は、鎌倉時代中期に現在の備前市島田で活躍した備前刀島田派の名工「守家」の典型作品で、よく鍛えられた地金と華やかな刀文が特徴的です。附属する「金梨子地桐鳳凰文糸巻太刀拵」は、江戸時代後期の作と考えられ、豪華な金蒔絵の鞘や精緻な彫刻が施された刀装具に桐と鳳凰を飾った高級品で、五撰家の一つ鷹司家の伝来品と伝えられています。

「太刀 銘 助長」は、表の銘文「備前国長船住助長作」から鎌倉時代の備前長船派刀工である助長の作品と考えられます。助長の在銘品は数少なく、本作は歴史資料として貴重であるとともにその出来映えから助長の最高傑作と考えられます。また、裏の銘文には「正和元年二月日」とあり、1312年に制作されたと思われます。



太刀 銘 守家（展示風景）



太刀 銘 助長（展示風景）

施設のUD化推進事業

本館では平成20年度から3年間で施設のUD化を進めており、平成20年度には来館者用エレベーターの設置と玄関の自動ドア化を、平成21年度には来館者用トイレの改修を実施しました。今年度は、車いす使用者に配慮した受付カウンターを新しく設置するとともに、階段の手すりを握りやすい2段手すりに改修しました。



新しくなった受付カウンター

平成22年度美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業

企画展「近代岡山の先人たち」の開催に合わせ次のような事業が文化庁の支援事業に採択されました。

【小学生向けガイドブック・活用事例CDの作成】

社会科で郷土や歴史を学習する小学校高学年を対象として、展覧会で紹介する8名の先人（岸田吟香・磯崎眠亀・福西志計子・犬養毅・坂野鉄次郎・山羽虎夫・仁科芳雄・人見絹枝）のあゆみや業績を紹介する『先人に学ぼうガイド』を地域の資料館と連携して作成し、県下全ての小中高校や図書館・公民館などに配布しました。合わせて、県総合教育センターの協力をいただき、授業の活用事例をまとめたCD「先人に学ぼうガイド指導資料集」を作成・配布しました。

【小学生の展示見学・スタンプラリー】

先人ゆかりの地域（美咲町・高梁市・里庄町）の小学生を博物館に招待し、学芸員が展覧会を解説しながら案内するとともに、『先人に学ぼうガイド』を活用して先人についての理解を深める学習を行いました。さらに、地域の資料館等をめぐる「先人に会うスタンプラリー」も実施しました。

（副館長 平井泰男）



『先人に学ぼうガイド』と「先人に学ぼうガイド指導資料集」(CD)



小学生の展示見学

「古代出雲展—神々の世界—」

本館では、昨年度から島根県との文化交流事業を進めています。今年度は「古代出雲展—神々の世界—」と題して、出雲大社・神仏習合・出雲信仰の歴史を、出雲大社の古神宝「秋野鹿蒔絵手箱(国宝)」をはじめとして、関連する古文書や絵画、工芸、考古資料などで紹介しました。



広報用ポスター

出雲大社の神聖なイメージに古神宝の秋野鹿蒔絵手箱(国宝)を重ねました。

会期：平成23年1月14日(金)～2月13日(日)

れる出雲信仰が江戸時代に定着し、御師・国学者の活躍などで広まっていく様子を紹介しました。江戸時代の庶民に親しまれた出雲大社への神集いや縁結びの様子をユーモラスに表現した錦絵などに注目が集まりました。その出雲信仰を広める上で一端を担った、岡山出身の国学者藤井高尚や平賀元義についても、この機会に紹介することができました。

様々な関連行事



記念講演会

島根県立古代出雲歴史博物館名誉館長上田正昭氏による記念講演会「古代出雲と神々の世界」には、約290人が集まり、貴重なお話を拝聴しました。



吉備楽～神々に捧げる調べと舞～

黒住教奏楽寮による「吉備楽～神々に捧げる調べと舞～」には約220人が集まり、吉備楽の演奏と華やかな舞を堪能しました。



ボランティアガイド

また、本展覧会では、博物館友の会によるボランティアガイドを実施しました。10回に及ぶ勉強会や現地見学の成果を生かして、来館者のニーズに合わせた解説の長さ

と内容を心掛け、3日間、243名に展示資料の解説等を行いました。「ガイドのおかげでイメージがふくらんだ」「理解が深まった」等の声が寄せられました。

会期中、5,537名の方々に御覧いただき、関連行事にも多くの皆様にご参加いただきました。

大切に守り伝えられてきた島根県の奥深い文化の一端にふれる良い機会になったのではないかと思います。(学芸員 河合 忍)

第一部 出雲大社と神々の国の信仰

出雲大社の歴史と古代から中世にいたる出雲国内の仏教や神仏習合の歴史を紹介しました。古代の出雲大社の本殿は現在の2倍の16丈(約48m)の高さを誇ったことが伝承され、文献・差図(設計図)・絵図などからその可能性が示唆されていましたが、平成12(2000)年に境内から発掘された巨大柱がその存在を裏付けるものとして注目されました。その成果を紹介するとともに江戸時代に全国に先駆けて神仏分離を行った出雲大社について、その遷宮の歴史を年代順に紹介しました。出雲国内の仏教や神仏習合の歴史については、中世から近世初頭にかけて出雲大社との関係が続いた出雲市鱈淵寺所蔵の資料をはじめとして、島根県内の社寺に伝来した資料を中心に紹介しました。最古の「出雲国」の文字が刻まれ、学術・美術の両面で資料的な価値が高い鱈淵寺所蔵の「銅造 観音菩薩立像(重要文化財)」などの優品に注目が集まりました。

第二部 出雲信仰の広がり

旧暦10月の出雲への神集い(神在祭)、龍蛇、縁結び、ダイコクさんの御神徳などの内容で知ら

「鬼ノ城～謎の古代山城～」

本展覧会では、平成18年度から岡山県教育委員会が行っている「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業を中心にこれまで得られた鬼ノ城の発掘調査成果を詳しく紹介するとともに、九州や瀬戸内地域の古代山城も紹介しました。

壮大なスケールで築造された古代山城について広く知っていただくとともに、謎の古代山城「鬼ノ城」への理解も深めていただけたのでは…と思っています。



広報用ポスター

「鬼ノ城」を代表する城壁を組み写真にしました。

第一部 古代山城

「第1章 古代山城とは」で、朝鮮式山城・神籠石系山城の分類、全国の古代山城の分布などを実際の文献で確認したり、朝鮮半島の山城と比較したりしながら紹介しました。「第2章 九州の古代山城」では、大宰府防衛をテーマに鬼瓦や木簡で大宰府・水城・大野城・基肆城を、次に百済系菩薩立像などから鞠智城を、次に岡山ゆかりの吉備真備が築城した怡土城を紹介し、「第3章 瀬戸内の古代山城」では、本県の大廻小廻山城、隣県の播磨城山城の資料を展示し、各地域の他の古代山城もパネルで紹介しました。

第二部 鬼ノ城



展示風景（第1室）

「第1章 城壁」「第2章 城内確認調査」「第3章 居住地・礎石建物群」「第4章 鍛冶工房」に分け、城の構造から出土品や遺

会期：平成22年9月10日（金）～10月17日（日）

構まで鬼ノ城の発掘調査でこれまで判明していることを紹介しました。一堂に並ぶ杯身や杯蓋、円面硯や瓦塔、轆羽口や鉄滓などから、築城年代や鬼ノ城の性格などに迫りました。展示室内には、大型礎石建物の柱や柱跡も復元しました。「第5章 鬼ノ城と温羅伝説」では、桃太郎や鳴釜神事などの関係資料やゆかりの地をパネルで紹介し、岡山ならではの伝承・民俗的アプローチも導入しました。期間中5,725名の入館者に観覧いただき、また古代山城の集成、鬼ノ城の遺構や遺物掲載の図録は増刷となるなど好評を博しました。



展示風景（第2室）

様々な関連行事

会期中、子どもから大人まで楽しんでいただく多彩な関連行事を実施しました。



記念講演会

「古代吉備最後のモニュメント 鬼ノ城」と題した総社市埋蔵文化財学習の館館長村上幸雄氏の記念講演会には220名、基調講演や発掘担当者の発表による鬼ノ城フォーラム「謎の鬼ノ城～城内を掘る」には200名の聴衆が鬼ノ城の話に魅了されました。

ふだんは滅多に見られない温羅伝説を演じる備中神楽「吉備津能」の公演には80名が観覧されました。



備中神楽「吉備津能」



〔屋外博物館〕学芸員とめぐる鬼ノ城バスツアー

また、初めての「〔屋外博物館〕学芸員とめぐる鬼ノ城バスツアー」には50名が参加し、秋空の中鬼ノ城を散策し、発掘現場も見学しました。

（副参事 正木茂樹）

「晴れの国の名宝—岡山の国宝・重要文化財—」

第25回国民文化祭・おかやま2010の協賛事業と位置づけた本展覧会は、出品資料103件すべてが指定文化財という展覧会となりました。

国宝・重要文化財の放つ輝きは多くの人を魅了し、期間中には、7,024名もの方にご来館いただきました。岡山の歴史と文化を物語る数々の名宝を堪能され、あらためて岡山の誇る文化財のすばらしさに驚かれています。



広報用ポスター

晩秋のイメージに名品を重ねました。

展覧会ポスターへ掲載したのは、本館所蔵の「国宝 赤韋威鎧」と「国宝 太刀無銘一文字(山鳥毛)」,そして京都からの里帰りとなった「国宝 餓鬼草紙」です。展示室では、これら岡山の名宝を目の前にして、何時間も鑑賞され続ける姿も見られ、文化財の持つ力を認識しました。

今回、前期の「国宝 赤韋威鎧」や、後期の「花鳥図屏風」(長谷川等伯筆)など資料の状態によって、期間を前期、後期と分け、限定して展示したのもありました。なかには、期間中の展示替えに合わせて、何度も足をお運びいただいた方もおられました。アンケートには、普段なかなか見ることのできない文化財との出会いを喜ばれたご意見も数多くみられ、大変喜ばしく、これだけの文化財を出品することができたことをこの上なく嬉しく感じています。

岡山の伝統工芸にかかわる関連行事

今回の展覧会では、多彩な関連行事を開催しました。岡山の文化財研究の第一人者である吉備国際大学の白井洋輔氏による記念講演会、備前焼の

会期：平成22年10月22日(金)～11月28日(日)

重要無形文化財保持者である伊勢崎淳氏による特別講座、日本刀の岡山県指定重要無形文化財保持者である安藤広清氏による



特別講座

特別解説などでは、岡山の誇る文化財の魅力をお話いただきました。そして、備前焼の伝統的な技法の紹介では、伝統工芸士である柴岡香山氏による轆轤の実演会も実施しました。



轆轤実演会

また、期間中は、秋の行楽シーズンということもあり、小・中学校を中心とした児童・生徒の遠足や校外研修での見学も多くありました。子どもたちに岡山の文化財により親しんでもらうために、マップを片手に展示室を見学する行事「マップでたどろう、岡山の歴史と文化～博物館で文化財めぐり～」も開催し、多くの子どもたちが楽しんで見学していました。今回は隔週に分野担当の学芸員による展示解説を実施し、毎回多くの来館者にご参加いただきました。

特別展の実現まで

特別展の実現まで

本展覧会は、文化庁の重要文化財公開促進事業に採択され、県外からも多くの貴重な作品をお借りして紹介することができました。京都国立博物館の「餓鬼草紙」をはじめ東京国立博物館や、奈良国立博物館からご出品いただいた資料は、岡山への里帰りとなりました。そして県内の所蔵者の方々からも貴重な指定文化財を御出品いただき、多くの方々の御協力のおかげで開催することができました。岡山の誇る文化財を公開することは当館の使命でもあり、喜びでもあると、会期を終えてあらためて感じています。今回の特別展にご協力いただきました関係機関の皆様には厚く感謝申し上げます。(学芸員 鈴木力郎)

「近代岡山の先人たち」

豊かな歴史と風土を有する岡山県は、古くからさまざまな分野で活躍し、わが国の歴史に名を残した人材を輩出してきました。これまで当館では、中世、近世の先人を紹介する展覧会を開催してきましたが、この展覧会では、わが国の近代に産業、教育、スポーツなどの分野で活躍した岡山ゆかりの8人にスポットをあてました。日本の文化向上に関わった近代岡山の先人たちの関係資料を通じて、その生涯や業績を振り返り、郷土岡山や私たちの生き方について考える機会となればとの思いから企画しました。



広報用ポスター

先人ひとりひとりの顔と名前で展覧会をアピールしました。

8人の先人は

いずれも岡山で生まれ育った次の方々です。ジャーナリストであり目録「精錡水」の製造販売も行った実業家 岸田吟香、幻の花ごぎ「錦莞蕙」の創始者 磯崎眠亀、岡山県初の女学校を創設した福西志計子、岡山県初の内閣総理大臣 犬養毅（木堂）、郵便事業の育ての親 坂野鉄次郎、日本初の純国産自動車「山羽式蒸気自動車」を製造した山羽虎夫、日本現代物理学の父 仁科芳雄、日本人女子初のオリンピックメダリスト 人見絹枝。

資料館・記念館と連携して

展示は、当館所蔵、個人所蔵の資料のほか、先人を顕彰する県内の資料館、記念館、また出身学校から資料をお借りして行いました。出身県で行う展覧会ということで、その人となりを理解していただけるよう幼いころや学生時代の資料も可能な限り展示しました。



記念講演会

関連行事は、「新聞・広告の先覚者 岸田吟香」と題して上智大学名誉教授春原昭彦氏の記念講演会（聴講者60名）、トヨタ博

会期：平成23年2月17日（木）～3月21日（月・祝）

物館学芸員の西川稔氏による「国産自動車第1号「山羽式蒸気自動車」(模型)がやって来る！」と題しての講演と解説（聴講者90名）、岸田吟香の出身町である美咲町の協力で「吟香さんのたまごかけごはんを味わおう！」という試食会（参加者142名）、早島花ごぎ手織り技術保存会の指導で行う「ミニ機で花ごぎ織り体験をしよう！」（参加者119名）、今回連携した県内の資料館、記念館をめぐる「先人に出会うスタンプラリー」と子どもから大人まで楽しむ、先人に近づける行事を開催しました。



国産自動車第1号「山羽式蒸気自動車」(模型)がやって来る！



吟香さんのたまごかけごはんを味わおう！

展覧会を終えて

この展覧会では、近代という同時代に様々な分野で活躍した8人を一堂で紹介したことで、8人の意外な関わりや、今回ご紹介できなかった先人との交流なども知っていただくことができました。たとえば、岸田吟香の顕彰碑や順正女学校創建碑には岡山県出身の三島中洲の撰文が刻まれ、坂野鉄次郎の父半四郎には、犬養毅から書が贈られていました。

全国的に有名な先人はその人となりや意外な一面を、また特定分野や地域ではよく知られていますが一般的な知名度はこれから、という先人はまずその業績をぜひ知っていただきたいと思いを準備しました。「名前だけは知っていたが、皆さんの生涯がよく分かった。」「県内に立派な人がたくさんいることをもっと多くの人に知ってもらいたい。」などの寄せられた感想から顕彰ができたように思います。

この展覧会は、岡山県民はもとより多くの方々に岡山のすばらしい人材を理解していただくよい機会になったのではないかと思います。

(学芸員 信江啓子)

教育普及事業の概要

平成22年度下半期の主な教育普及事業は次のとおりです。

館内授業・出前授業



展示室見学



バックヤード見学

本館で実物資料に触れ、展示の見学を行う「館内授業」、学芸員が学校に実物資料を持参してテーマに基づいた授業を行う「出前授業」は、いずれも大変好評で、館内授業は52校、出前授業は17校にご参加いただきました。展覧会に合わせての見学や博物館のバックヤード見学も好評でした。

学芸員解説



「晴れの国の名宝—岡山の国宝・重要文化財—」展示解説

毎月第2・4土曜日の午後2時から、学芸員が展示の内容を詳しく分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くの来館者にご参加いただきました。

中学生職場体験・博物館実習

今年度もチャレンジワークとして岡山市内の中学校2年生（7校25名）が博物館業務を体験しました。想像以上に大変な学芸員の仕事やその厳しさを感じたようです。また、2月には学芸員を



美術工芸品の取り扱い実習

めざす県内の大学生12名が博物館業務の実習と、企画展の関連行事などで博物館活動を支援する実習に取り組みました。

吉備の国ジュニア歴史スクール



い草コースの館内授業



備前焼コースの新聞作り

文化財見学、博物館での館内授業、そして学校でのまとめという3日間の日程で岡山の歴史と文化を学ぶ吉備の国ジュニア歴史スクール。上半期に文化財見学と館内授業を実施した浅口市立金光吉備小学校と、久米南町立弓削・誕生寺・神目小学校、桃太郎コースの矢掛町立美川・三谷・山田・中川小学校の子どもたちは、特別展「鬼ノ城展」の開催時期に合わせて博物館を訪れ、館内授業を行いました。3日目は、2日間の成果をもとに各校とも工夫を凝らしたまとめを行いました。パソコンを利用して作成した新聞や紙芝居や劇によるまとめ、発表会等、いずれも素晴らしいものでした。今年度の様子を報告集にまとめ県内のすべての小学校へ配布しています。



報告集

いきいき講座



報告集

博物館連携事業として今年度より「いきいき講座」を行いました。民具などの懐かしい道具を使うなどして、体験や思い出を語り合う「回想法」を導入し、「いきいき館内講座」「いきいき出前講座」「いきいき展示解説」を開設し、博物館と福祉の場との連携を図っています。

(学芸員 鈴木力郎)

●●●●● 平成23年度前期の展示予定 ●●●●●

特別陳列 岡山県指定重要文化財「寶福寺文書」

会期 平成23年4月26日(火)～5月29日(日)

特別陳列 「後楽園の宝物」

会期 平成23年4月26日(火)～5月29日(日)

特別展 「幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸

－清水三年坂美術館コレクションを中心に－

会期 平成23年6月3日(金)～7月18日(月・祝)

企画展 「岡山の年中行事 -夏-」

会期 平成23年7月23日(土)～8月29日(月)

特別陳列 「大地からの便り 2011 -県内の発掘調査報告展-」

会期 平成23年7月23日(土)～8月29日(月)

企画展 「新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-」

会期 平成23年9月2日(金)～10月2日(日)



群鶏図香炉 正阿弥勝義作
清水三年坂美術館蔵



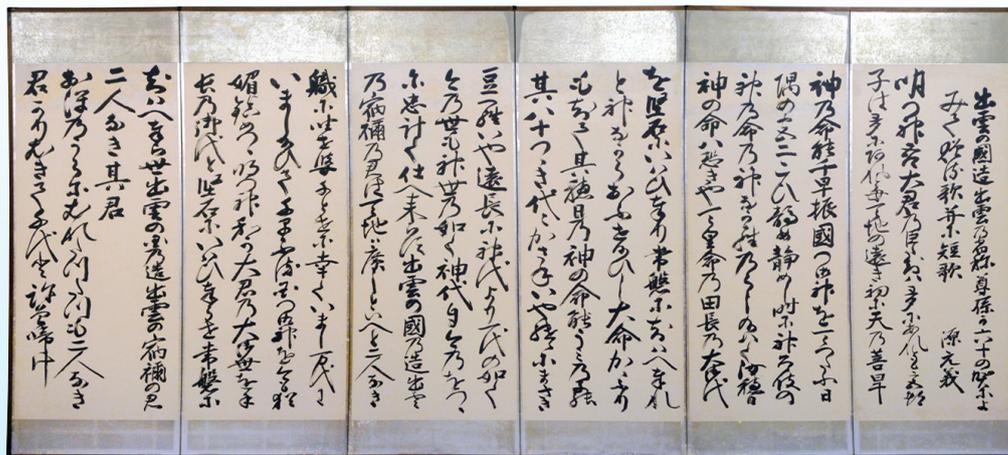
シリゲ
岡山県立博物館蔵



色絵山水文壺
伊万里・柿右衛門様式
文化庁蔵

資料紹介

平賀元義長歌書屏風



この屏風は、平賀元義（1800～1865）が出雲大社の宮司千家尊孫（第78代出雲国造）の還暦を祝って詠んだ長歌と短歌を6曲屏風に押絵貼りしたものです。

平賀元義は、江戸時代末期に活躍した国学者・歌人です。元義は岡山藩士の家に生まれ、岡山城下で育ちました。はじめ父の跡を継ぎましたが、33歳の時、藩籍を離れ、歴史・地理・神事などの研究に励み、多くの門人を育てました。

この屏風には、「日隅の宮」「(天)穂日乃神」など記紀神話から取材した歌が詠まれています。『出雲風土記考』などを著した国学者の元

義ならではの作品です。元義は、国学研究のほかに、万葉調の和歌を得意として多くの歌を詠みましたが、元義の歌が全国に知れ渡ったのは、没後に正岡子規に「万葉以後唯一の万葉調歌人」と評されたことによります。

この屏風を贈られた千家尊孫は、国学者の本居宣長に師事した千家俊信から国学と歌を学び出雲歌壇（鶴山社中）の中心人物として活躍しました。元義も美作・備前・備中に平賀社中を形成し、さかんに活動していました。この屏風は、両者の間に歌人としての交流があったことを伝えてくれる貴重なものといえます。

（学芸員 河合 忍）

岡山県立博物館だより 第75号

発行日/平成23年3月31日
発行者/岡山県立博物館 館長 三村 修

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5

TEL: 086-272-1149 FAX: 086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。